

幻のサル化石に逢える。

天然記念物
指定化石
初公開



250万年前の神奈川の生きものたち

特別展

日本最古
の霊長類

中津層出土のサル化石

3/1(金) — 5/12(日) 休館日：毎週月曜日・3/21(水)・4/18(木)

開館時間/午前9時～午後4時30分(入場は4時まで) 特別展示解説/毎週日曜日 13:30～14:00

特別展観覧料/無料
常設展観覧料/20歳以上(学生を除く)=500円・20歳未満・学生=300円・高校生以下・65歳以上=無料

●講演会

「中津層出土のサルとその時代の動物」

■日時:3月2日(土) 14:00～15:30 ■講師:横浜国立大学名誉教授 長谷川善和 ■対象:一般 80名(抽選)

「中津層のサル化石」

■日時:3月30日(土) 14:00～15:30 ■講師:日本モンキーセンター所長 岩本光雄 ■対象:一般 80名(抽選)



交・通 箱根登山鉄道 入生田(119号)駅下車徒歩3分
所在地 小田原市入生田499 TEL0465-21-1515

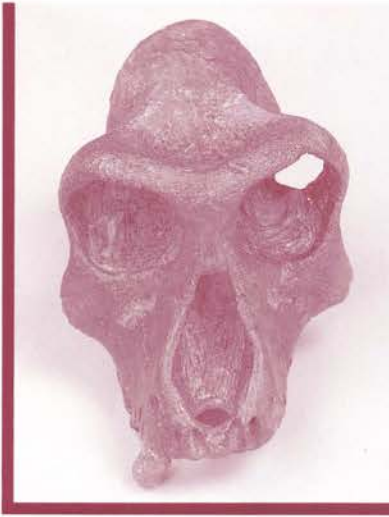


神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

天然記念物に指定された中津層群の化石

1991年にサルの頭蓋骨(とうがいこつ)化石が発見された中津層群神沢層(かんざわそう)は、厚木市街地北方の相模川と中津川沿岸に分布する、約250万年前の新第三紀鮮新世(せんしんせい)後期の地層である。1987年3月に、愛甲郡愛川町小沢(こさわ)の砂利取り場跡の崖から、ステゴドンゾウの頭蓋骨化石が発見された。その後の発掘調査によって、多数の陸と海にすむ動物化石や植物化石の産出することが明らかになった。その内容は、無脊椎(むせきつい)動物では、貝類約60種、脊椎動物では550点以上の化石が産出した。このうち哺乳(ほにゅう)動物化石では、サル、ステゴドンゾウなどの陸生哺乳動物4種、クジラ、アシカなど海生哺乳動物数種類、ウミガメ科1種、魚類24種が判明した。

このように中津層群は、海生・陸生哺乳動物の混在することで特徴づけられるが、300万年～200万年前の鮮新世後期の日本列島における動物相を知る上で、極めて貴重な資料である。この中の、特に時代、環境などを示す代表的な6種7点の化石資料が、1994年2月に神奈川県天然記念物に指定された。



サル頭蓋骨(とうがいこつ)の化石

日本産のサル化石はこれまで現生のニホンサルの系統が知られているだけであった。この日本最古のサル化石は、それとは全く異なる系統のものである。そしてモンゴル・ヨーロッパ南部・アフリカの鮮新世の地層から産出している化石に類似しており、その起源がオーストラロピテクス動物群に由来する可能性もある。



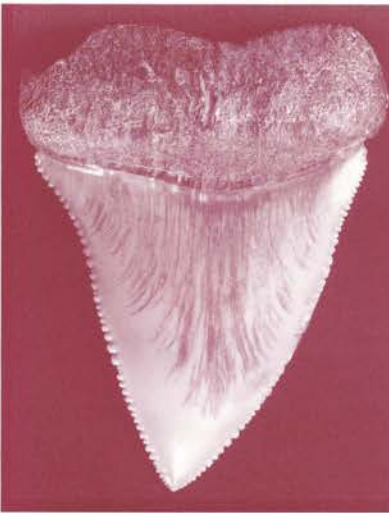
ステゴドンゾウ頭蓋骨(とうがいこつ)の化石

第4乳臼歯を使用中の若いゾウの頭蓋骨下半部である。これは鮮新世後期の頭蓋骨標本で、しかも、若いステゴドン属の頭蓋骨標本として、日本で唯一のものであり、保存状態も良い。



サイの左第4手根骨(しゅこんこつ)化石

ほぼ完全な第4手根骨(手首の骨)である。日本で初めて、鮮新世の地層から発見されたサイ化石である。



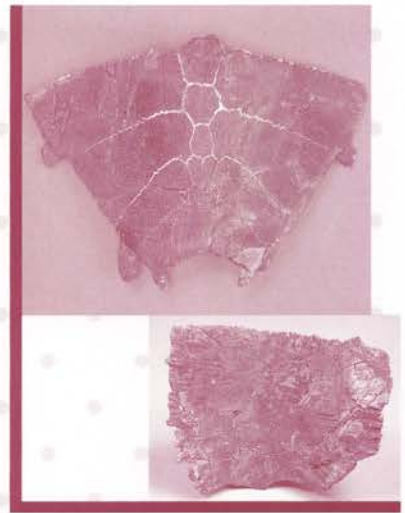
ホホジロザメの左上顎歯(じょうがくし)化石

歯の大きさをから推定される体長は5m以上。日本の鮮新世後期の地層から発見されたホホジロザメとしては最大級である。



ネスミサメ類の椎骨(ついきつ)化石

ほぼ完全な大型の椎骨(直径103mm)である。日本の鮮新世後期の地層から発見されたネスミサメ類としては最大級である。



ウミガメ類の甲羅(こうら)化石

鮮新世後期の地層から、日本で初めて発見されたウミガメ科の化石である。復元すると甲羅の長さが約70cmに達する。シロムス属の新種の可能性が高い。